



# 学校だより

横浜市立洋光台第一小学校

令和5年10月31日発行

令和5年度



## 『話を聴く』

児童支援専任 小野崎 浩一

児童支援専任は全校児童に関わる仕事をしています。洋一小では、「すべての子どもたち一人ひとりに応じた内容と方法で支援を行い、だれもが楽しさを実感でき、安全で安心して過ごせること」を目指し、様々な取組を行っています。その中の一つとして、特別支援教室(第二学習ルーム)があります。

学習内容や学び方の定着、学校での過ごし方、友達とのかかわり方など、学校生活を安心して楽しく過ごしていきたいという思いを実現していくために、それぞれのよさや強み、解決していきたい困り感を明確にして、その子に応じた具体的な支援の内容や方法について検討・実施できるよう、学級担任等と連携し支援しています。

具体的には、お子さんや保護者の教育相談を行ったり、スクールカウンセラーとの教育相談の窓口になったりします。また、特別支援教育コーディネーターとして、学習支援や生活支援など、様々な支援が必要な場合に、担任や保護者、関係機関と連携するためのコーディネートも行います。些細なことでも、気になることや相談したいことがあればいつでも声をかけていただければ幸いです。

私は、子どもたち一人一人のよさや強み、解決していきたい困り感を明確にしていくために、「話を聴くこと」を意識して毎日関わっています。

最初は挨拶をしても何も反応がなかった児童がいました。それでも毎日挨拶を続けていると、ある朝、「おはよう」と、向こうから挨拶をしてくれました。思わず笑みがこぼれました。その日を境に、挨拶だけでなく、好きなことや、自分の興味・関心をもっていることを話してくれるようになりました。話をしていくことでその子の強みやよさをたくさん知ることができ、話をする回数も増えていきました。

そんなある日、学校に忘れ物をしてしまい、私と一緒に探してほしいと声をかけてきました。どこに置いたかわからなくなってしまった様子でしたが、私には一つ思い当たる場所がありました。一緒に探しにいくと、私が思っていた場所に探し物がありました。無事に見つかったときのほっとした表情が印象的でした。

普段の何気ない会話や関わりがなければ、すぐには見つけられなかったかもしれません。話を聴き、関わりをもつことで関係性が生まれ、児童の困り感を解決したり、なりたい自分に近づいたりするための手がかりが見つけれられるのだと、改めて実感しました。

「話を聴くこと」は、相手の思いを受け止めること(受容)や相手の気持ちや立場になって考える(共感)ことでもあります。話を聴き、関係をつくり、よさや強みを生かしながら、解決していきたい困り感や不安感が小さなうちに見つけ、一緒に解消したり解決したりしています。引き続き、関わりをつくりながら、洋一の子思いに寄り添った支援や指導ができるよう、アンテナを高くし見守っていきます。

保護者や地域のみなさんとの関わりにおいても、さらに広げたり深めたりしていければと思っています。校内や校外でお会いした際に、声をかけてくださることは、私の活力になっています。これからも、顔の見える関係を大切に、保護者や地域のみなさんとともに、洋一小の子みんなが誰もが安心して豊かに、楽しく学校生活を送れるよう尽力して参ります。何卒よろしく願いいたします。